

## 知事との県民対話集会（平谷村）概要

- ・開催日時 令和4年12月1日（木） 午後5時から午後6時30分まで
  - ・会場 平谷村役場 集団指導室
  - ・参加者 県民50名、西川平谷村長、阿部知事、丹羽南信州地域振興局長
  - ・テーマ 若者との村づくり ～若者による持続可能な地域づくり～
- ・主な発言（要旨）

### 【参加者】

・結婚へつながる出会いの場が減少している。結婚相談所は敷居が高い。広域的な出会いの場づくりや発信を県でPRしてほしい。

### 【知事】

・行政がやると、公平性や中立性などを考えないといけない。若い人たちで面白いことを考えてほしい。複合的な目的があれば応援できるかも。課題を共有しながら一緒に考えていきたい。

### 【参加者】

・林業に従事していて大学の方とオンラインで会議をする。今後、学術的なテーマで学生の交流会が村内でできればいいと話していたところ。その中で砕けた話もできればいい。

### 【知事】

・長野県は大学の合宿や調査研究の場としても多く使ってもらっている。若い人たちの交流の場を増やすのは重要。

### 【参加者】

・若者を増やそうとするなら住むところが必要。シェアハウスがあれば「軽い移住」ができ、出会いの場となる。

### 【知事】

・以前にも若人と高齢者がシェアハウスで一緒に住む仕組みを作ったらどうかという提案があった。真剣に考えたい。

### 【参加者】

・中山間地域では対象者が少ないこともあり、未満児保育への対応など子育て・共働き世帯への支援が少なく、出産後すぐ職場復帰できる環境にない。

### 【知事】

・子育て支援は市より町村の方が進んでいるが、保育士等の人の確保に課題がある。保育士等の確保は、県と市町村で一緒に取り組んでいきたい。

### 【参加者】

・小規模校は学びの可能性に満ち溢れた環境にある。里山型小規模校のブランド化、良さを発信してほしい。

・平谷小では、子どもの声を大切にしたり行事や授業に取り組んでいる。放課後の居場所づくりにも力を入れている。

・小規模校で質の高い教育を実践するには、カリキュラムマネジメントに関わる質の良い、想いのある教職員の配置が必要。

### 【知事】

・小規模校のブランド化はいいご提案をいただいた。農山村地域の小規模校は、都会ではできないことができる。平谷村の取組は素晴らしい。

・「信州やまほいく」の良さが小学校につながっていないとの指摘がある。長野県の教育に連続性を持たせ、いい方向に変えていく近道だと思う。しっかり考えたい。

**【参加者】**

- ・中山間地域では、多様な学びを受けることが難しく、フリースクールにもアクセスしにくい。分教室型の不登校特例校を多く作ることが重要。通常教室にも多様な学びが広がると思う。
- ・県には、中山間地域における不登校支援の自治体間連携が進むようお願いしたい。

**【知事】**

- ・不登校を考える会の方等とも課題を共有したい。農山村地域の人たちも視野に入れ、望ましい形を一緒に考えたい。

**【参加者】**

- ・山の中で放牧する酪農を行い、効率化とは真逆のやり方で6次産業化を目指している。SDGsの観点からもよいと思うが非常にお金がかかる。新規就農支援の貸付制度はあるが、実績がないと貸し付けてもらえない。

**【知事】**

- ・日本では大きな活動に発展していくようなベンチャーがなかなか生まれにくいところがある。具体的には地域振興局の担当と個別に相談を。県の制度に課題があれば考える。

**【参加者】**

- ・村内には、住む場所だけでなく、個人経営者が新規開店しやすい場所が少ない。店が増えれば平谷村に来る目的が複数でき、滞在時間も増えると思う。

**【知事】**

- ・制度的な問題は我々も一緒に考える。まずは、どういう村にしたいか、どんなお店があればいいかなど、村長も交えて、みんなで話し合ってもらいたい。

**【参加者】**

- ・平谷村では、地域おこし協力隊というだけで役場の方や農家の方たちが親身になってくれ、大変感謝している。他地域では（制度を）うまく活用できていない隊員もいると感じているが、行政のトップとして協力隊員に何を期待しているか。

**【知事】**

- ・非常に期待している。多くの皆さんに活躍していただき、大変ありがたい。
- ・いろいろな人たちが地域にいないと、地域の良さや問題を客観的に見られない。土と風で言えば、風の役割を果たしていただきたい。
- ・地域の皆さんと心をつなげて、一緒に地域づくりを進めてほしいし、できれば隊員期間終了後も長野県に住み続けてほしい。

**【参加者】**

- ・村内のコミュニティバスは本数が少なく、夏休み中の部活動などでは保護者の送迎が必要。買い物や医療へのアクセスに制限のある独居の高齢者も多い。子どもや高齢者が自由に移動できる輸送サービスが必要。
- ・村単独では利用者が少ないので、周辺の村と連携して運行できるよう県主導で進めてほしい。

**【知事】**

- ・公共交通確保のためには、これまで以上に税金投入が必要。主権者として公共交通の必要性をもっと訴えてほしい。
- ・交通事業者だけで維持するのは難しいので、利用者、事業者、行政がフラットに話し合わないといけない。住民の力を借りるなどの仕組みづくりが必要。規制緩和されても地域でやる気がないと難しい。